

## 第2回文化芸術に関する意見交換会

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 1 日時                | 令和元年8月26日(月) 14時30分～17時   |
| 2 会場                | 議会棟2階 第7委員会室  |
| 3 出席者<br>(敬称略、五十音順) | (1) 委員(12人)<br>あらい太朗、大沢英子、久米尚子、近藤一幸、<br>陣出勇人、竹山浩、茅野憲一、坪内間、<br>長井武志、畠山メグミ、村上和夫、森口達治<br>(2) 事務局(7人)<br>スポーツ文化局 蓬田局長、大西理事<br>文化振興課 野口課長、茂庭課長補佐<br>小野瀬係長、飯島主任、田島主事<br>(3) 欠席者(2人)<br>新井久夫、中澤政人  |
| 4 公開・非公開の別          | 公開  |
| 5 傍聴人の数             | 1人  |
| 6 内容                | (1) 開会<br>(2) 委嘱状交付、スポーツ文化局長挨拶<br>(3) 委員、事務局等紹介<br>(4) 委員長及び副委員長の選出<br>(5) 会議の公開について<br>(6) 議題<br>①さいたま市文化芸術都市創造計画等の概要及び<br>本市を取り巻く文化芸術の現況と課題について<br>②さいたま市文化芸術都市創造計画<br>平成30年度施策集等について<br>③意見交換会の位置づけ及び計画策定の進め方<br>④次期計画の検討事項<br>(7) その他<br>(8) 閉会 |

## 会 議 記 録

### ＜①さいたま市文化芸術都市創造計画等の概要及び本市を取り巻く文化芸術の現況と課題について＞

- 事務局 資料「1－1 さいたま市文化芸術都市創造計画 概要版」、「1－2 本市を取り巻く文化芸術の現況と課題」及び「1－3 政令指定都市の計画策定状況調査結果及び各市の予算額」を説明
- 委員長 ありがとうございます。事務局の説明について御意見、御質問等あれば御発言ください。
- 委員 資料1－2の最後のページに5つの課題がありますが、これをこれからこの会で考えるということになるのですか。
- 事務局 後ほど御説明いたしますが、こちらの課題と次期計画のフレーム、施策体系等について、御意見をいただきたいと考えています。
- 委員 だとすると、年に2回の開催では足りないと思います。
- 事務局 後ほど計画策定のスケジュールで御説明いたしますが、今年度の意見交換会は3回の開催を予定しています。
- 委員 2回よりは良いということですね。わかりました。
- 委員 目標として挙げている「文化的なまち・芸術のまち」という市民の割合25%という数字についてですが、平成29年度が16%であったことからすると、達成は難しいという気がします。  
市民がどういう状況で、この「文化的なまち・芸術のまち」にチェックしているのか気になります。つまり、ここで市民が思う文化芸術とは何を指しているのか。たとえば、私はサッカーが好きなのですが、サッカーを芸術だと思う人は少ないと思います。しかし、スタジアムでサポーターがコレオグラフィーを綺麗に作っていたら、それを見た外国人は「これって芸術だよ、アートだよ」と思います。つまり、何が芸術かという意識が違うのではないかと個人的な意見として持っています。
- 委員 このアンケートはどういった市民に対して、どういったかたちで実施した結果なのでしょうか。
- 事務局 毎年、市民意識調査として、さいたま市について多岐にわたる質問をしています。この数字の取り方としては、「さいたま市をどんなまちだと思いますか」という質問に対し、「スポーツの盛んなま

ち」「教育環境のよいまち」「交通の利便性が高いまち」など20ほどの選択肢を設けており、そのうちの一つが「文化的なまち・芸術のまち」です。無作為抽出で選ばれた方に調査を行っており、この質問は、複数選択が可能となっています。その結果がこのパーセンテージです。

委員 わかりました。ありがとうございます。

委員 「文化的なまち・芸術のまち」は16%とのことですが、ちなみに一番高いのはどういうイメージだったのでしょうか。

事務局 すみません。今、結果を持ち合わせておりませんので、調べて後ほど回答いたします。

委員 実は私は京都出身でございまして、「京都は文化芸術のまちだ」と京都に住んでいる人は言うのですが、さいたま市では皆さんどういう意識でいらっしゃるのでしょうか。複数選択のなかで出た数字ということであれば、「文化的なまち・芸術のまち」に変えていかなければならないと感じました。一番多いイメージから、どう変えていけばいいのかというのが目標としてあればわかりやすいと思いました。

委員長 あとで我々の委員会の役割について、御説明があるかもしれませんが、意見交換会ですので、自由に意見を出すことが我々の仕事です。何かをここで決める、あるいは方向付けるといった協議会や審議会の役割は担っておりません。むしろ、「あ、こういうことに気がついた」みたいなことを言っていただいて、そうすると「それは違う」というような意見があって、何が正しいかという結論は出さない、そういう感じです。とんでもないことを言うてはいけません、思いついたことをおっしゃってください。たとえば、今の御意見で言いますと、この統計で何がわかったのか、という御質問があがっているわけで、そのことと文化芸術の施策と結びつくかどうか、私はこう思う、ということはおっしゃっていただいてよいというのが、この会議の性格だと理解しております。

そうすると、先ほどの16%の人が選択されたというのは、全部の回答数で割るので、実際にはもうちょっと値が小さくなると思います。出現率というもので、誰かが何かを言おうとして、時にそれが出るであろう確率で、それが100%であるとなればとんでもない問題だということに普通はなりません。3割を超えてもとんでもない問題だと思います。今データが来たようですが、事務局、いかがでしょうか。

事務局 お待たせいたしました。平成30年度の結果ですが、「文化的なまち・芸術のまち」は14.1%とお伝えしましたが、平成30年度の調査で一番高い値を示しているのは、「買い物など生活に便利なまち」が59.1%でトップです。2位が「交通の利便性が高いまち」で49.5%、3位は「居住・生活環境のよいまち」で49.2%。あとは「関東の主要都市」「スポーツの盛んなまち」「教育環境のよいまち」「自然の豊かなまち」が続きます、14.1%というところと全体のなかの13番目の位置付けになります。

委員長 全部で何項目あるのですか。

事務局 選択肢としては20項目ございます。

委員長 では、まん中より少し下という感じでしょうか。そのようなイメージを市民の皆さんはお持ちであるということです。私は旧浦和市の出身なので、少し低いと思ったりしますが、ここは旧大宮市、旧与野市、旧岩槻市も一緒になりましたので、その全体像としての新しいさいたま市として皆さんがどういうイメージを持っているのかということが分かったかと思えます。

それでは議題①につきまして御意見、御質問が終わりましたので、次の議題に進みたいと思います。

## ＜議題②さいたま市文化芸術都市創造計画平成30年度施策集等について＞

事務局 資料「2-1 さいたま市文化芸術都市創造計画平成30年度施策集」及び「2-2 さいたま市文化芸術都市創造計画令和元年度施策集暫定版」を説明

委員長 御説明につきまして御意見や御質問等があればよろしくお願ひします。

委員 昨年度の施策について、その効果の有無を、何か指標を持って評価していたりするのですか。

事務局 計画全体としては大きな指標「さいたま市を文化のまち・芸術のまちとイメージをする市民の割合」を持っていて、個別の事業に対して効果を測定する指標は現在のところは持ち合わせていません。次の計画の中でどういうふうを考えていったらよいか、というのが一つの課題であると認識しています。

委員 個人的に思うのは、目標値を25%に設定し、色々な施策を打っているのは何故なのかと考えると、市民に芸術都市であることをこ

の市役所としてアピールしているわけです。そこを理解して欲しいというのを何で量れるかということを考えていたのですが、来場者数を測定することはできないのでしょうか。

事務局

事業の一部については来場者数を測定していますが、それを長期的な目標として定めている事業もあれば、そこまでは定めていない事業もあります。大きな事業になれば、来場者数を目標に立てている事業もあります。

委員

概算でもいいから来場者数を測定しておいたほうが良いと思うのは、たとえば400近い施策をやっていたら、延べ100万人規模が参加しているのではないかと思うからです。そうすると、市外の人でも当然いると思いますが、多くの人に触れあっているはずなんです。そうすると、どこにアプローチしていったらよいかという次の施策も出てくると思います。これだけの施策をやっても浸透しないと言っているように聞こえてしまうので、これだけの人が参加してくれているという情報があるだけでも変わってくるのではないかと思います。

委員

資料2-1の6ページにある、まとめのなかで「施策7 文化芸術活動の場となる施設の充実」が13事業と、事業数が少なく、施策の拡充が必要であると書かれています。私もそう思っています。サードプレイスの施設がもっと身近にたくさんあったらよいと思います。資料2-2の6ページにあるまとめでは、施策7の拡充が必要であると書かれていないのですが、増えたのでしょうか。もう少し施設があったらよいと思っています。

委員長

もう少し施設が増えたらよいと思っているが、施設の整備が要望されるようなことが書かれていたので、令和元年の施策の中にはそれを検討するようになっているのですか、というご質問でよろしいでしょうか。違いますか。

委員

どのくらい施設が増えたのか知りたいと思いました。

事務局

施策7は資料2-2の5ページを見ていただくと、事業としては平成30年度より2つ増えているのですが、その中身は施設が新しくできたというものではありません。一つは「芸術劇場や地域・学校と連携した新規イベント事業」で、これ自体は何か新しい施設をつくるという事業ではないです。もう一つは「アートストリートエリア バナー保守管理及び配電用地上機器ラッピング業務」で、これも新しく施設をつくるわけではないのですが、広い視点で見ると

文化芸術の場となる施設の充実につながる施策となります。御質問の回答になっておりますでしょうか。

委員                    はい、わかりました。

委員                    資料2-2の6ページの最後の部分に「サッカーとバスケットボールの開催都市であり、これまで育まれてきたさいたま市の魅力をアピールすることが重要だ」と書いてありますが、具体的な案がありますか。こんなことをアピールしていこうという案があれば教えてください。

事務局                オリンピック・パラリンピックの競技開催都市となっていることから、大会を通じてさいたま市を広く発信し、おもてなしの心で迎えていこうという「おもてなしアクションプラン」があります。オリンピック・パラリンピック担当の部署があるのですが、そちらでプランをつくっていきまして、文化だけではなく、観光など色々な面からいくつかのカテゴリを設けたプランになっています。さいたま市としてオリンピック・パラリンピックで何をやっていくかということは、そのなかで計画をされています。文化の面で言いますと、来年3月から5月に開催する「さいたま国際芸術祭2020」が、市が主開催する文化オリンピックの一番大きなものとなります。その他にも、各種事業を計画している段階です。

委員                    ありがとうございました。

委員                    資料2-2の7ページを見ていただけますか。今日初めての方もいらっしゃると思いますので、さいたま市の美術展覧会について、耳に入れておいていただきたいと思います。さいたま市の美術展覧会は毎年開催されていますが、日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真の6部門があり、それが3つの回に分かれて開催しています。ご存じない方もいらっしゃると思います。そして、1つの回は搬入や搬出を除き6日間ずつしかありません。美術家協会会員が顔を揃えて全部の部門を1回で観ることができないわけです。さいたま市は4市が合併していて結構範囲が広いものですから、参加者が偏ってしまい、意見交換もなかなかできない状態が続いていて、大変頭を抱えております。さいたま市に美術館ができ、みんなが顔を合わせて他の部門の人とも同時に集まり、意見が交換できる、ということぜひ早く実現できるよう願っております。要望書の提出についても市長に取り持っていただきまして、話が進むようにしてくださっているのですが、本気で取り掛かってみようという意思表示はなかなか難しいような状態が長く続いております。候補地はあ

ちらちらと出るのですが、なかなか実現できなくて困っている状態です。皆さんに知っていただきたく発言させていただきました。

委員

文化芸術をさいたま市に根付かせることの基本だと思うのですが、そのために一生懸命案をつくって実施していただけているのだとは思いますが、ただ、いろんな展覧会に行くと、盛況まではいかない気がします。何かが違う、と言ったら失礼かもしれませんが、関心の持ち方とか、仕掛けることとかが定型的になっている気がします。市民会館や公民館では、場所取りはすごく盛況で、すごい人気です。あの芸術やいろいろなものをやりたいというパワーはどこへ行っちゃったのかというように、市の主催になってくると少ないような気がします。

それと、アンケートの方法についてですが、さいたま芸術劇場に行くとアンケートを必ず書かされるのですが、いつも同じ設問で、もうちょっと変えていただくと書く気になると思います。できたら長期的な視点で考えていただいたほうがよいと思います。

それから、シルバーセンターで子どもたちの放課後クラブのお手伝いをしています。小学校1年生から6年生の子どもたちが、放課後、何をしているかを見ると、実はマンガが一番人気です。コミックです。映画みたいなビデオはどうかと思って、録画したものを観せると目の色が変わっています。本はどうかと思って、本を置いているのですが、マンガと活字の本を置いておくと、手にとるのはマンガです。だから目から入ってくるものに関心が向きやすいのかなと思いました。また、クリスマスになると壁などに自分たちでデコレーションをするのですが、自分たちのアイディアでつくるのではなく、ネットで見たものを使い、綺麗に仕上げています。子どもたちは小さい時から良いものを見て馴染んでいくと、感覚やセンスが少し変わるのだと思っていましたが、小学校2、3年生でそういう状態だとすると、いろんなことをやったとしても「授業の一環だから来た」みたいになってしまうのではないかと、すごく心配しています。もう少しアイディアを出さないと根付かないのではないかと気がしています。

こういう計画が先に進むとことで目標ができるということはとても良いとは思いますが、もう少し長いスパンのものも合わせて考えていただくことは可能でしょうか。予算というものがある、というのはわかっていますが、こういう色々な人が集まったところで、いろんな意見が出てくれば違うのかなと思いました。

委員

平成30年度と令和元年度の事業数はあまり変わっていないということですが、この一つひとつのイベントや事業が「去年やった

から今年もやりましょう」、「続けてやっていきましょう」となっていないでしょうか。私も仕事上で思うこともあります。たとえ良いものであっても内容を変えていく、ブラッシュアップしていく、場合によっては良い時にやめて、次の新しいものをつくりあげるといように、私たちも頑張っていかなければいけないと思います。そういったところも含めて、予算に関しては千差万別のところがありますが、そういう組み立て方はどんな塩梅で考えられているのかと思いました。

委員長                    すごく難しい質問です。

委員                        困らせるために言ったのではなくて、素朴に普段いろんな部分で携わっているところで思ったことです。

委員                        具体的に、2020年2月に岩槻人形博物館が開館します。3月にはさいたま国際芸術祭2020、この大型事業が準備されて、これから行うことになっているわけですが、ある意味ではこの芸術祭というのは期間限定的な事業です。一定期間集客して、色々な成果も出ます。継続的な事業としては岩槻人形博物館になります。資料の6ページが一番下に書いてあるように、さいたま市には大宮盆栽美術館、漫画会館、鉄道博物館、今回新たに加わる岩槻人形博物館があるわけですがけれども、「魅力ある資源を活用する事業について、着実に推進することが必要である」と書かれています。具体的にこの4つについて、たとえば連携させるなどということ、少しは考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局                    現在の計画でも、盆栽、人形、漫画、鉄道というのはさいたま市の魅力ある代表的な文化芸術資源と位置付けております。来年2月に岩槻人形博物館ができますと、盆栽、人形、漫画、鉄道と、すべての資源について拠点となる施設が出来上がります。これを契機として、どのようにこれら魅力ある資源を活用していくかということや、次の計画の中で重点プロジェクトとすべきかなど、審議会でも御審議いただくこととなっています。意見交換会においても、たとえば重点プロジェクトでこういう取組はどうかなど御意見をいただければ、次の計画の中で反映できるものは反映していきたいと考えています。

委員長                    大変活発な御意見をいただきまして、ありがとうございます。若干まとめてもよろしいでしょうか。  
今出された御意見の中で、一つ目は、全部で約360もの事業があるのだけれども、その効果はどうなっているのかという話があり

ました。これはすごく難しく、おそらく市としては固定資産税にどう反映されたのかを分析しようという話になりますが、税制の制度が綺麗に反映できるかという点と必ずしもそうではないので、その結構な部分である不動産だとどうなるのかということをよくやります。けれども、たとえば横浜市の場合、横浜美術館があるから、あるいは港のほうに市のホールがあるから地価が上がっているのか、みんなが文化都市と言っているのか、と言ったらそうではないような気がします。しかし、横浜市から山下公園がなくなってしまったらどうなるのか、というと、みんな「やっぱりそれは横浜ではないよね」と言う。また、みなとみらいは造船の工場だったところですが、芸術の雰囲気を醸し出すエリアとなり、参加型のイベントがかなり行われている。そういう意味ではもともとは労使が闘う場所だったのが、人々が楽しむ場所になっていく。そういう大きな転換点が横浜にありました。それを見て、千葉市も努力をし、東京のビックサイトのあたりもそういう努力をしています。そういう視点で考えた時に、さいたま市は自分たちの生活を向上しようとした時に、市としての評価があがっていくという方向にどうやって持っていくのかというのがおそらく議論になると思います。そのところが、国がこの政策を利用したり、EUがこの政策を利用したりする時の基本になります。

その点でいくと、先ほどオリンピックをやったらどのような成果があるのかというレガシーの話がありましたが、日本は世界的に見て非常に優れています。最初のオリンピックが終わった時には都市の再開発を行い、首都高ができました。2回目のオリンピックの時は環境問題に挑戦したので、一番メインのスキーマのコースを閉鎖しました。それから3回目の長野の時はボランティアが出ました。日本はまだボランティアへの認識が十分ではありませんでしたがボランティアが活躍したので、それ以来ボランティアという言葉が日本に定着しました。今回我々は2020で何をやるのか。あまりよく見えてないのだけれども、人々の共通性、それからスポーツが科学に立脚することを出してくるのではないかという気がします。

その時に、さいたま市はいったい何なのか、それを我々の文化芸術といった時にそれが何なのか、つまり、市民がそれにどうやって参加して、どうやって芸術を高めようとしているのか、そのことが来た人たちに伝わるかどうか、ということがあれば、そのところが先ほどの御質問にあるレガシーにつながっていく。そういうような議論が出た時に、施設が我々には無いではないかという話が出ています。施設が旧市に拘泥してしまっていて、全市として使ってい

こうとした時に、サービスや施設の改修も十分に追いついていないという御指摘がありました。そういう意味では施設の問題が我々にとっては重要なのだということを、この意見交換の中から導き出すことができます。そうすると、政策目標として、純粹に、芸術だけを政策目標とするのではなくて、それと市民生活の連携を考えようという話、それから次にオリンピックがやってくるならこの機を逃すなという話、もう一つは我々の施設はどうしても旧市に引っ張られているので、それを全市的に整えていこうという話、それを審議会で考えるように、我々から上げていくということなのではないかと思います。皆さんはいかがでしょうか。

#### 委員

私は大宮生まれ、大宮育ちです。大宮と言ったら、ずっと前から、漫画と鉄道と盆栽と言われてきました。市域が広がり、岩槻も入って、人形が加わりました。鉄道は言うに及ばず、夏休みなんかはすごい盛り上がりです。盆栽に関しては、伝統のある盆栽を守っていこうという感じです。そして漫画なのですが、漫画会館はぜんぜん人が入っていません。「魅力ある施設」とありますが、今の漫画会館は魅力がないです。これは自虐であり、身内の意識で言っています。もっともっとちゃんとやらないといけないのです。北沢楽天さんという人を担いでいますが、時事漫画を描いていた人なので、たとえばサザエさんとかフクちゃんとかは各自自治体が頑張っていますが、「楽天さんと言ったらこれ」というのが無いので、どうしようかと。楽天さんというのは漫画の開祖、手塚治虫が子どもの頃に読んでいた漫画を描いていた人、それしかないのです。エッセンスというかスピリッツというか、そこはおそらくずっといつまでたっても伝わらない部分だと思います。だからこそ、いろいろなところと連携を持てたら有難いです。

また、施設について言うと、どうして貸館ができないのか。企画展を開催していますが、今の施設の状況だと貸館ができないのです。大宮盆栽美術館とは歩いて5分で行ける距離で、大宮盆栽美術館は鉄道博物館と連携し、相互割引などをやっているのを羨ましく思っています。2階の展示室はマンガ本がダーッと置いてありますが、その役割はプラザノースがしっかりやってくれていると思います。漫画会館は立地条件が良いにもかかわらず、エレベーターの設置も難しい。貸館にする場合はある一定の審査や基準が必要なのかもしれませんが、築53年が経ち、一度だけ耐震工事が入りましたが、それ以外は何も変わってないです。1階の鯉はたぶん50年前からずっと泳いでいますよ。もうちょっと広げるなど、どうして突破できないのかなという思いがありました。施設という話があったので、どうしてもそれだけは言いたかったのです。

委員長 言いたいことはまだおありでしょうが、時間が押していますので。資料の説明をお聞きして意見を言うのが、我々の今日の仕事でございます。あと2つございますので、次に進ませていただきます。

### <議題③意見交換会の位置づけ及び計画策定の進め方>

事務局 資料「3 意見交換会の位置づけ及び計画策定の進め方」を説明

委員長 ありがとうございます。それでは、御意見、御質問等お聞きいたします。

委員 2期目ですが、当日に資料を配布されたことがあり、意見を求められてもなかなか難しいです。今回は、膨大な資料がドーンと送られてきました。受け取って、これをどう見るのかという部分もあると思うのです。ただ眺めればよいというわけではないだろうし。そうすると、何を聞きたいのか、論点を絞って欲しいと思います。たとえば、学校では非常に網羅主義的です。どこからもつっこまれないように、すべて網羅しておくというのはわかります。でも「あなたは何をやるのですか」というところが見えなくなります。だから、資料について聞きたいことを出していきたい、というのがお願いです。そうすれば、もっと有効活用できると思います。

もう一つは、アンケートの一番終りごろに、市民文化活動状況調査という項目がありますが、この項目はもう決まってしまうのですか。8月と言うと、もう終わってしまっているのですか。

事務局 後ほど御説明いたしますが、これから行うところです。

委員 ということは、検討できる部分もあるということですか。

事務局 アンケートの内容、どういうアンケートをするかという項目については審議会にかけて決めているものです。今後ここで出てきた意見をふまえて、我々が次の計画で考えていかなければいけないニーズ等が出てくると思いますので、そういったものが出たところで、皆様にも御意見をいただきたいと考えています。

委員長 アンケートの話も出ましたが、意見交換会の位置づけ及び計画策定の進め方について、皆さんいかがでしょうか。

委員 これまでも資料が分厚いという話になっていますよね。私も2期目なのですが、ここで自由闊達な意見交換はしにくい感じになってしまっているという気がします。本当にそこが目的だったら、ポイントを絞ってもらって、「今こういう問題について皆さんどう思い

ますか」と投げて、フリートークのようにしてはどうでしょうか。わりと初期の頃から指摘しているのですが、「何か意見のある人手を挙げて言ってください」だと学級会みたいなやりとりになってしまいます。そうではなくて、理想的には車座のようになって、わりと不規則発言しても、あとは委員長がうまいことまとめてくれればよいのです。間からチャチャを入れるようなことが結構面白いアイデアだったりするものだと思います。ライブ感をもっと出したほうがよくて、四角い何もない殺風景なこういうところで「さあ自由闊達に」と言われると、どうしていいかわからなくなってしまいます。できるのであれば、もう少しラフな感じで意見交換会ができるようになったらよいのではないかと思います。

#### 委員

そのとおりだと思います。私も2期目ですが、まったく同じことを考えていました。芸術文化というものを語る時に、型どおりのスタイルというのとは一番似合わない感じがします。委員がおっしゃったように、車座になって座談会というか、雑談形式でも、むしろそのほうが実のある考えが出るような気がします。失礼な言い方ですけれども、私たちからするとお堅い、きちんとしたかたちを取らざるを得ないのでしょうが、廊下で事務局の方と雑談しましたが、ああいう雰囲気はすごく好きですし、事務局の方もわりとざっくばらんにお話してくださる、そういう関係を次回つくれたらいいなと思います。直接、芸術文化には関係ないかもしれませんが、座席があちらとこちらという位置関係にあるのはあまりいい感じではないと思います。私は蓮沼小学校のPTA会長を何年かやりましたが、総会はどうしても役員側と学校と保護者と、そういうかたちでした。私が会長になった時、円形にしないかということをご提案しました。それを受け入れてくれて、いまだに蓮沼小学校は円形で総会をやっています。より良い意見が出るためには、それなりの環境を委員長になんとかお考えいただけるよう、よろしく願います。

#### 委員長

委員長が決められることかどうかは分かりませんが、国の委員会でも審議会だとかこのかたちですが、ワーキンググループやワークショップはいろいろなやり方があります。ただ、本年度はこれで決まってしまうというのがありますが、事務局としても議会对応などがあるかもしれませんが、もし変えられるのなら、もう少しいろいろな意見が出るように考えたいと思います。たとえば、時間が少し長くなりますが、誰かが最初に問題提起をして、その問題提起を受けて皆さんが議論するというようにします。その時に、今日のように4つの議題があったら、4つの議題をそれぞれ、グループを分けてやるのです。全員がすべてに関わるのではなく、委員は平等

だというふうに考える。そんなようなやり方もできないわけではない。そのあと発言してもらい、皆さんで意見交換をし、まとめるという方法もあります。ただ、一番重要なのは、我々が良い意見を出して、お互いに意見を交換し、そのことを反映して市民のためになるということです。我々にとって一番重要なのは市民の皆さんの生活や芸術を考えるという視点だと思います。私が答えてしまっているのか、という疑問がありますが、一委員として市に提案したいと思います。

それでは、次の議題に進んでよろしいですか。

#### ＜議題④次期計画の検討事項＞

事務局 資料「4-1 次期計画の検討事項」及び「4-2 アンケート実施計画案、各種調査実施計画案」を説明

委員長 次期計画の検討事項をお聞きしましたが、資料3の日程を見ると、我々がこれについて意見を述べるのは次回となりますか。

事務局 そうです。次期計画の検討事項について御意見をいただくのは、次回第3回です。

委員長 第3回ですね。ということは、今日はこれをいただいて、検討するというのが我々の次回までの仕事ということですか。

事務局 次回では、アンケート結果などの基礎資料を踏まえ、次期計画の事務局案をお示しする予定です。アンケート結果がまとまるのは10月になるので、次期計画案は11月以降になると思いますが、出来てきたところで皆様に御意見をお伺いしたいと考えています。

委員長 今ここで積極的に議論する、というものではないですよ。

事務局 本日は、今年度、来年度に向けての意見交換会のスケジュール、今後どうかたちで御意見をいただくのか、というアウトラインの説明をしているということになります。

委員長 わかりました。

それでは、資料3の右側の図と、資料4-1を見比べていただいて、何か足りないとお考えのものがありましたら、教えていただけないでしょうか。

委員 私は、今日は漫画の話をしようと思って来たので、どうしても具体的になってしまいましたが、市民が気軽にふれあえるという点に特化して参考意見を述べさせていただきます。

北沢楽天さんが漫画家ということを知らない人がほとんどで、それを知ってもらうために一番手っ取り早いのが、北沢楽天の絵がそこかしこにあるまちをつくるというのが一つのアイデアです。現状はどうかというと、どこにもありません。さいたま市のおみやげとしても楽天に関するものは無く、随分前から色々と提案してきました。この会議室にも楽天の絵が飾ってあるわけではないですし、市長室にも無かったと思います。だから、こういうことをこの先言っていけば反映してもらえるのでしたら、私は十何年か前から言っていたのですけれども、ようやく日の目を見るかもしれないということですね。期待しております。しっかり宿題をやります。

## 委員

ちょっとタイミングが外れてしまいましたが、細かい事業も含めて360近い事業があるわけです。この書類が送られてきて、こんなにさいたま市内にあるのかと正直驚きました。私自身が盆栽関係者ということもあるのですが、「大盆栽まつり」もちゃんと掲載されていました。「大盆栽まつり」は36回を数え、歴史があるということもあるのかもしれませんが、遠くは北海道から、時には九州から来る方もいます。皆さん関心のある方々です。タイトルは「大盆栽まつり」ですが、置いてあるものは盆栽だけではないのです。以前は的屋も何軒もあり、おでん屋さんなど、本当のお祭りのものも多かったです。最近はどちらかというと盆栽に近い、草花をはじめとした単価的には200円、300円から始まるようなものを置いています。毎年来るリピーターもいます。盆栽町の一角で行うわけですから、盆栽町は盆栽屋があるということは市民の皆さんは知っているのですが、意外とさいたま市内の方でも「盆栽村に初めて来た」「盆栽を初めて見に来た」という方が結構います。世界大会も開かれて、かなりマスコミ等でも取り上げられていますが、まだまだ「知ってはいるけれど、来たのは初めてだ」という人が毎年います。ですので、我々としては宣伝がまだまだ足りないのかなという気もします。やはりこれだけの人が関心を持っていて、我々当事者も歩行者天国にしてもいいのかなと思うくらい大勢の人が来ていても、まだまだ「知ってはいるけれど、来たことはない」という人がいることを実感しています。来年は37回目になりますが、市の道路の両端に出店されるので、地域住民となかなか難しい面がだんだん出てきているのが現状です。我々はなんとか話し合いをして解決しながら進めていますが、これからはそういう点が難しくなる、いつまで続けられるのかなという心配や懸念があるのが実情です。

盆栽の話が出たので申し上げましたが、一頃は7~8万人、もっと多かった時もありましたが、今はだいたい6万人くらいは訪れている状況です。

委員長

この計画を見ていて、一つだけ不思議なことがあって、今の委員のお話にもありましたが、どうやってPRをするのかという話があります。PRなのかCMなのかは分かりませんが、伝えたら伝えられた人が反応して来たりします。けれども、この356の施策がPRになっていて、たとえば「さいたま芸術文化都市」というポータルサイトがあって、そこに356個並んでいて、それで「こういう成果がありました、あなたはどう思いますか」と聞いているのかと思ったら、どうもそうではないような気がします。我々も文化芸術都市であるということをPRするというのをそろそろやったらどうなのかと思っています。PRとはパブリック・リレーションズですから、結局、我々も、芸術としては、純粋芸術だけでなく大衆芸術も欲しいと思います。なおかつ、参加型の芸術も欲しいです。自分がつくった袋を売る、フリーマーケットなどです。そういうようなものも対象として取り入れたいので、我々が幅広く、「あなたが芸術と思うのであれば受け入れます。だけどルールにしたがって、それを展示してください。」というような、門戸の広い芸術活動を展開していることを、もっと広く日本中に発表したら良いと思います。そうすると、それに対して「いや、横浜が一番だよ」と言う人がいて、ポータルサイトなどに書いてくるかもしれない。「横浜が一番だよ」というコメントがあると、さいたま市の人が「横浜なんて遠くて行けないよ」と書くかもしれないし、そういうデジタルコミュニケーションみたいな活動が我々の活動の中についてくるような気がします。審議会で審議いただけるかどうかはわかりませんが。

そのあたりを、委員にも聞いてみたいと思います。ラジオだから見えないわけですが、どうやって視聴者と交流するのか。

委員

ラジオで喋っている方がそこにいらっしゃいます。

委員

私は結構喋っていますよ。あまり悪いことを言うと怒られちゃうから、さいたま市頑張れの話をしています。

委員

私どもラジオは、耳からだけの情報ですので、やっぱり想像を膨らませる媒体です。耳からしか聴けない情報を理解するためには、何かの調査結果によると7回以上同じものを聴かないと覚え込めないとされています。そうになると、やはり繰り返し周知していくしかない。それと、あとはもちろんラジオなので、いかに興味を持たせられる内容か、話題をつくりながら展開させていくか、これも本当に大事です。SNSやホームページなどデジタル関係の部分も

併せて、どう立体的に展開していくか、私たちとしても今後の課題でもあります。

もう一点は、いろいろなメディアにおいて、今の10代はテレビを見ない、場合によってはラジオも聴かない、じゃあ何を見ているのか、何に興味があるのか。よく言われるのはYouTubeですが、とは言えそれだけでは私たちも商売にはならないので、若者たちに目を向けてもらうか、興味を持ってもらうか、ということを探索しているのが現状です。なので、何かありましたら逆に教えてほしいこともあります。

委員長

ありがとうございました。今のお話のように、ダイナミックなコミュニケーションを視聴者とお取りになっている。そうすると、我々もアートを通じて、市民だけではない、色々な人ともっとダイナミックなコミュニケーションが取れるような方策を考えて欲しい、我々も考えよう、みたいなことはあるかもしれませんね。

それから、実はNACK5さんを聴いていて、たまにYouTubeを見るのですが、スタジオの動画が出ていたりして、すごく参考になったりします。見られないときにFMを聴いているから、あとで見られる時にもう1回動画やサイトを見るというのはごく普通の行動なので、そういう発信方法をどうやって組み込むかというのはあるかもしれないですね。

委員

YouTubeで国際芸術祭の動画がアップされていますよね。どれくらいの人が観ていますか。ピアノをピロンポロンと鳴らすような動画だったと思いますが、YouTubeへのリンクがSNSに貼られていたので、私はSNSをきっかけに動画を見ました。あれで何か盛り上がってくれたらと思いますが、どのくらい盛り上がっているのでしょうか。

事務局

今は数字を持ち合わせていないので、後ほどご報告できればと思います。

委員

動画をYouTubeでご覧になったという方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。私はたまたまSNSで見て、拡散もしました。個人的には地味すぎる、穏当すぎるというのがあくまでも個人の意見です。そこがさいたま市らしさだなという気もして、すごく特色が出ているとは思いますが。

ついでに、委員、NACK5で20秒くらいの音のシリーズがありますよね。あれを今朝聴いていたら、20秒近く、大宮駅東口の雑踏の音なのですが、結構スタッフには受けていました。あれはアートですよね。表現だなと思いました。あれはシリーズですか。

委員 音だけの世界なのでアピールできているかどうかはわかりませんが、埼玉県内の色々なところの音を録音しています。お聴きいただいたのは、大宮でないかもしれませんが、ナレーションでカバーし、注目していただければよいと思います。花火の音とかもあります。

委員 なんかヨイショみたいですが、面白かったです。

委員長 ありがとうございます。

1980年代に環境音楽というジャンルのなかで、すごく売れたCDに「ビーチバレー」というのがあって、ビーチバレーを4人でやっている音をCDにしたものがありました。そのようなものでしょうか。

終了が伸びてしまいまして、申し訳ございません。他に何かございますか。締めてよろしいですか。

以上で議事はすべて終わりましたので、議長の職を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。